

令和6年度第4回社会教育委員の会議

令和6年8月23日（金）

午前10時00分開会

開催日時	令和6年8月23日	開会10時00分 閉会11時45分	
場 所	小金井市役所第二庁舎801会議室		
出席委員	議 長 笹井 宏益 副 議 長 金澤 大恵 委 員 新井 しのぶ 委 員 榎本 敏 委 員 北澤 隆司	委 員 國分 ひろみ 委 員 森本 榮子 委 員 小林 浩 委 員 坂野 勝一	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 梅原 啓太郎 生涯学習課長 三浦 真	図書館長 内田 雄介 公民館長 渡邊 健介	
事務局	生涯学習係長 倉澤 淳子		
傍聴者人数	0人		

日程	議 題	
第 1	議 題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議録の承認について (2) 第4次小金井市生涯学習推進計画の評価について（令和5年度分） (3) 第5次小金井市生涯学習推進計画策定に向けての検討について (4) 関東甲信越静社会教育研究大会について (5) その他

笹井議長 皆さん、おはようございます。定刻、ちょっと過ぎましたけれども、令和6年度第4回社会教育委員の会議を始めたいと思います。本日は伊藤委員が御欠席ということで御連絡をいただいております。では、まず事務局より資料の説明をお願いいたします。

倉澤生涯学習係長 御説明いたします。事務局です。お手元に本日の次第と、資料1から5までをクリップ留めして配布しております。また、委員の皆様だけに配付しているものといたしまして、月刊こうみんかん6月から8月号と「青少健だよりはなみずき」73号、こちらを配付させていただいております。不足しているものはございませんでしょうか。事務局より以上です。

笹井議長 よろしいでしょうか。もしあれば。

坂野委員 1つ確認させてください。議題のところで、前回6月4日に社会教育施設の在り方を検討するという通知が笹井議長から来ているんですが、これが入ってない。意図的に省かれているのはなぜでしょうか。御存じのとおり、清里山荘にもその後、7月行きましたし、また来週には、市長部局のほうで公共施設の在り方検討会がスタートするので、今日討議するのが最もいいと思うんですけども、それを議長、副議長がわざと外してらっしゃるので、その理由をお聞きしたいということです。この通知は事務連絡の形で笹井議長の名前が出て、委員皆に配信されています。今後の社会教育施設の在り方を検討するのに当たりというので、例の清里山荘視察の実施はまさにそのために行っているんだなと思いました。図書館と公民館はいつでも我々、行きますし、文化センターも行きますが、清里山荘は私も行ったのは初めてで、いろいろ議論しましたが、確かに社会教育施設の観点からま

とめておいたほうが今後の議論、来週から始まる市長部局の議論にもいいなと思って、これは期待していたんですけど。議題は、議長、副議長が決められるとおっしゃったので、わざと外していると思うんですが、これはなぜかなと、理由をお聞きしたいと思っています。

倉澤生涯学習係長 事務局です。本年度の視察につきましては、新しく入られた委員の方も多くいらっしゃいますので、一度、市の清里にございます社会教育施設を見学していただいたということがあります。坂野委員のおっしゃるとおり、今後の公共施設の在り方について検討していただく際に、委員の皆様が材料となるようにという趣旨で行かせていただいております。今後、公共施設の在り方を検討していく上で、この場で議題として挙げさせていただくこともあるかと思いますが、今回の会議につきましては、令和5年度分の評価についてということも議題とさせていただいております、時間の都合もございますので、公共施設の在り方についての議題は、今回は挙げさせていただいてないというところです。

以上です。

坂野委員 今の話を聞いておかしいのは、時間の配分はこれから議論するので、議長の差配によればどうでもなるんですが、議長、副議長は、今言った社会教育施設の在り方をわざと省いている、この理由を知りたいということです。まさかお忘れになっているということはないと思うんですけども。

笹井議長 視察の受け止め方、成果についても、課題についてもいろいろ受け止め方はあったと思うんですけど、それはまたこれからの第5次生涯学習推進計画作成の議論の中とか、あるいは社会教育委員の議論の中で生かしていただくということだと理解しています。

坂野委員 もう一言加えますと、清里山荘へ行っても報告書が全然つくられてないので、いろいろ思うことはあるんですけど、どんどん頭の中から消えていきますので、これは早めにやっていただくということが重要です。もう既に2か月近くたっていますけど、そのときでさえ大分薄れてきていますので、早めにやっていただくのは当然かと思いました。あまり遅くなると、あのときの感動と言ったらおかしいで

すが、考えたことは消えていきますので、これは十分気をつけてください。まさか忘れていたということはないと思いますけれども、忘れていたら職責を尽くしていない、ということになりますので、議長御自分で通知を送られて忘れるということにはなさないように、これは警告させていただきます。

以上です。

倉澤生涯学習係長 事務局のほうで作成し、次回の会議で配付させていただきます。

笹井議長 概要でいいので、すみませんが、よろしくお願いします。
それでは、まず議題の1番目なんですけれども、会議録の承認ということで、それも事務局よりお願いいたします。

倉澤生涯学習係長 資料1を御覧ください。こちら5月24日に開催した第2回の会議録をお配りしております。事前に皆様に修正したものをお送りしております。本日この場で御承認いただいた後、ホームページ等で公開させていただきたいと考えております。

以上です。

三浦生涯学習課長 事務局、生涯学習課長でございます。前回の会議録の作成に当たりまして、私の発言の中で若干文脈から言葉がそぐわないなという部分がありました。その部分につきましては、会議の進行というか流れを変えない程度で言葉を置き換えさせていただいている部分がございます。その点につきまして、本日の会議録をもって御承認いただければと思っております。

以上でございます。

坂野委員 今の三浦課長の修正を依頼したのは私です。事前に確認しまして、流用という言葉の使い方なんですけれども、これ、修正されたものでいいと思います。

ただ、議事録に関してぜひ伝えなきゃいけないのは、前回の議事の進行で非常に大きな欠点が見つかりました。今補わないと、後で社会教育委員として責められると思いますので、補っておきます。

一番の原因は、前回の議事録の議題の案内のところで、副議長から提示されたのは、補助金交付についてというだけでしたが、議論

が始まってみると予算オーバーの件だということが分かりました。これは、なぜこの内容までを詰めなかったのかと、当日びっくりしてあきれてしまいました。

この件については、以前、今のメンバーで最初の会合、昨年10月6日の、資料2のところ、かつての社会教育委員の会議が平成16年2月に社会教育関係団体補助金見直しについてという提言を行っています。提言の中に、予算超過の場合と書いてあります。それを全然協議してないんですね。ということは、明らかに討議の過程で欠陥があります。なぜこの提言を議長、副議長から事前に提示されなかったのか。

したがって、このまずい議論の仕方が会議録に残ってしまいますので、ここで補わせていただきます。

その提言で何が書いてあるかということ、抽せんで行うと書いてあります。もし予算がオーバーしたら抽せんを行うと書いてある。この討議は一切していません。私も知りませんでした。

これ、議題をはっきり予算超過についてと書いていただければ、多分そういうふうに話を確認していると思うんです。そうすると、これは議事録の案内は本会議の9日前に配付されて調べる余裕があったと思うんですね。当日示されては何もできなかったということで、なぜこのような中身を書かないで補助金交付についてだけ議題に書いてしまったのか、これは大きな欠点だと思います。それが1つです。

もっと大きな問題があります。その提言を読みますと、この来月10月に行われる市の内部監査とは多分違うと思うんですけど、平成14年度第1回定期監査結果報告書というのが出てきます。これに重要なことが書いてあります。

幾つか項目があるんですが、要点だけ言います。社会教育関係団体の補助金の交付先について、団体名を見ると社会教育関係団体として真に適切かどうか疑問を持たざるを得ないと、生涯学習課向けに意見している。実際、そういう疑問例があったんだと思います。

ということは、社会教育委員は、それを客観的にチェックしないといけないというのはすぐ分かると思います。時間がないので急ぎますけれども、この議事録を見ていただきますと、議事録の7ページ下に三浦課長の発言があります、一番最後の行ですけど。この団体さんは云々で始まって、この団体さん、社会教育については非常

に熱心に活動されている団体と私は認識してございますという三浦課長の個人的な見解に基づいて我々は判断をせざるを得なかったわけです。そのときの状況は、申請団体が増えていますがどういった団体が増えてきたか分からないので、客観的なデータで検討しなかったわけです。客観的なデータには当然ながら、教育団体として申請するときの申請書がありますので、それを出していただくというのを議長、副議長が準備させるよう指示してほしかったということで、手順としては、これを踏まないと定期監査で指摘された点をクリアできないと思います。

三浦課長の発言については、今週配られた、この間、21日ですか、配られた小金井市議会だよりというのがあります。その2ページ目に面白いことが、同じことが書いてあります。請願・陳情の審議結果のところ、こういう陳情書がありましたと。

笹井議長 坂野さん、もっと短く言って。

坂野委員 短くやっています。重要なことですから続けます。議長、副議長が飛ばした事項ですから。

審議会等において、職員が不確かなことや個人的な見解などを述べ、審議会の議論をミスリードすることのないよう求める陳情書。まさにそのとおりで、なぜ議長がそれを止めなかったのか、当時副議長ですね。そういうことを非常に気にしています。

分かりますけれども、非常に重要で、御説明くださいませんか。

笹井議長 これは議事録を承認するのকাশないのか。

坂野委員 だから、議事録は承認しません。このままだと我々、リスクを負うわけです。聞いてませんでしたか。議長、副議長がただ単に補助金交付で、いきなり補助金の予算オーバーと言われて、このままだと我々が、私の発言も見て分かりますけど、分かりましたと言っていますね。分からないまま言っています。だから、分かりませんと修正したいぐらいなんです。その原因を今しています。

それは、なぜそういう提言があるとき、監査報告書を見て、必要な資料を出していただけなかったのか、この点を確認したいと思います。

笹井議長 今の話は、会議の運営の話で議事録とは関係ない話。

坂野委員 議事の進行に関係あって、議事録は議事の進行を確認したものです。お答えください。何で提言書を読まずに議題を承認したんですか。

笹井議長 議事録というのは、発言をチェックするという話です。

坂野委員 私の発言は、どこで発言すればよろしいんですか。私の今の内容はどこで発言すればよろしいんですか。

笹井議長 今の御意見は一般論として、運営の在り方として御批判として受け止めます。議事録そのものは修正するかしないか、どちらなんですか。

坂野委員 認めません。

笹井議長 なぜ。

坂野委員 これは、中の議論が不十分で、私としては、再度具体的に言いましょうか。それこそ時間を取ってますよ。

笹井議長 発言するのやめてください。議事録を承認するかどうか。

坂野委員 しませんと言ってるじゃないですか。

笹井議長 理由になってない。

坂野委員 私の発言のところ、読みます。8ページ、見てください。上から十数行目、坂野と書きまして「御説明ありがとうございます」、次です。「分かりました」、これを分かりませんに本当は修正したいんですけれども、もう既に発言したもので録音されています。

笹井議長 偽造になりますよ。

坂野委員 私の発言を止めないでください。議事を進行させてください。「分かりました」、本当はこれ、分からないまま分かりましたと言っているのです、それを修正したい。そうでないと内容が間違ってしまうので、社会教育委員の義務を果たしてないことになる。その原因が今……。

笹井議長 それは関係ないことです。議事録の承認とは関係ないこと。

坂野委員 承認しませんと言っている理由です。何度言ったら分かるんですか。私は承認しません。

笹井議長 その理由になってないと言っているんです。

小林委員 仲裁させていただいてよろしいでしょうか。

議事録に関しては、既に発言をしてしまっていて、それは直せないというのは原則だと思いますので、ただ、坂野さんは、そこに関して問題に気づいたので、今御指摘なさっているというところですね。そのことについては今指摘されて、今度の議事録に載るわけで、そこに関して確かに、もうちょっとしっかり議論したかったという意見もありますし、議長がやるべきだったという意見も入っているので、前回の話していることに関しては、要するに正確だったか正確じゃないか、話したことは事実か事実じゃなかったかということを取りあえず前回の議事に関してはやると。リスクを負うということに関しては、すごく御心配なさっていていろいろやっていることでしたら、それは今回の議事録の中でうまく反映されて、今後やっていくということがあれば、ある程度、解消されませんかという提案です。

笹井議長 いいです、話さなくて。発言しないでください。関係ないこと言ってるんですよ。

坂野委員 8ページの私の「分かりました」ということ……。

笹井議長 やめてください、それは。

坂野委員 議事の進行について修正されるのは、今三浦課長が挙げたように、議事録を変更してください。私の「分かりました」という発言を修正したい。少なくとも削除したいということでございます。あるいは、「分かりません」に直したい。さすがにそれはYES, NOが反対なのでやめて、「分かりました」を削除したいと。

どうしてかという、そのとき、分からずぼんやりしゃべってしまったということで、理由は今言ったとおりです。

今の問題と、議長と副議長の職務怠慢の部分はどのように解決するか後で相談したいです。これはおいて、「分かりました」のところ、消してください。どうしてかという、これは私の本心でしゃべったものではありません。頭の中でぐるぐる回っているんですね、あれ、何かおかしいなど。それが分かったのは、私が自分で調査して、その結果、分かったものです。時間がかかりました。それで今修正してくださいということで……。

笹井議長 それ、できないと思います。

坂野委員 発言は止めないでください。議長、何でそういう進行するんですか。

笹井議長 発言が長いからですよ。

坂野委員 長くしているのはあなたです。

笹井議長 違いますよ。やめてください。議事進行、私がやります。

坂野委員 では、今の結論、出してください。

笹井議長 それはできません。

坂野委員 なぜですか。

笹井議長 発言したんです。そんなこと言ったら、いろんな会議でそうなるんですよ。あのとき、私、そう思ってなかったから、この発言、撤

回します、修正しますといったら議事録にならないじゃないですか。

坂野委員 三浦課長の発言が先ほど直しましたよね。私のお願いもありますけど、これはどうなんですか。三浦課長が修正されました。修正の内容、確認されていますよね。まさか知らないということないですよ、議長、副議長が。どういうものだったか全部読んでらっしゃいますよね。

笹井議長 はい。

坂野委員 大きな変更でしょう。何でそちらを認めるんですか。御説明ください。読まれましたか、三浦課長の元の言葉。

笹井議長 読みましたよ。

坂野委員 大分違うでしょう。中身が大分違うでしょう。

笹井議長 坂野さんが修正を依頼したというわけでしょう。

坂野委員 中身の話を聞いているんです。手順じゃないです。本当にお読みになりましたか。

笹井議長 はい。

坂野委員 なぜそれだけ大きな違いを認められたんですか。御説明ください。

笹井議長 基本的には、発言した内容を本人がチェックして、それで、その本人が了解すればいいということになります。

坂野委員 一般論はいいです。具体的に、三浦課長の発言をなぜお認めになったんですか。そして、なぜ私の発言の修正を認めないんですか。御説明ください、具体的に。

笹井議長 その原因は、誤った理解で発言してしまったから修正してくれ、それは認めることはできないですよ。

坂野委員 三浦課長はまさにそういう理由で変更したんですよ。本当にお読みになりましたよね、三浦課長の発言。

笹井議長 読みましたよ。

坂野委員 勘違いするでしょう。

笹井議長 本来は……。

坂野委員 だから、趣旨は一緒です。御説明ください。

笹井議長 どういうふうの説明したか分かりませんが、基本的には、発言した内容は変えられません。

坂野委員 一般論はいいです。この議論です。議題の中身については、笹井議長の発案ですよ。三浦課長の発言を修正して、私は駄目だという、その理由を教えてください。一般論ではありません。

笹井議長 前の議論の理解が間違っていたから発言したということでしょう。

坂野委員 三浦課長も一緒です。

笹井議長 そんなことないです。

坂野委員 では、説明してください。

笹井議長 説明したじゃない。

坂野委員 違いを説明してください。

笹井議長 説明したじゃないですか。

坂野委員 聞いていません。

笹井議長 ですから、坂野さんの御意見は、承認するかどうかなんですよ。

坂野委員 論点が違います。三浦課長の文言修正は認めたわけですね。その理由と、私のほうを認めない理由、これを教えてくださいと何度も言っています。議論が長引いているのは、笹井議長の責任です。

笹井議長 坂野さんの意見がころころ変わるからです。

坂野委員 私はこの「分かりました」を消してくれと言っているんです。「分かりました」を消してくれ。三浦課長のほうは流用という言葉が消してくれと言っているんです。同じです。

笹井議長 違いますよ。

坂野委員 違う理由を言ってください。

笹井議長 だから、前回の理解が間違っていたから、自分の発言を取り消してくれと同じことを言っているわけです。

坂野委員 繰り返しますけど、三浦課長と私の内容、一緒ですよ。私はしゃべり過ぎたかもしれませんが、深い理由があって、議長、副議長の議論の詰め方が甘かったから説明しただけです。三浦課長の修正と一緒にですよ。

笹井議長 この議論をしてもしょうがないので。

坂野委員 承認するんですか、承認しないんですか。

笹井議長 そしたら、多数決で決めますか。

坂野委員 多数決で決める問題じゃありません。社会教育は独任制です。御存じなかったですか。会議の議事録のうち、自分の発言は自分の責任です。

笹井議長 だから、坂野さんは直したわけですよ。

坂野委員 何をですか。きちんと行ってください。日本語になってないです。

笹井議長 発言を修正されたわけですね。

坂野委員 私の発言は残っています。「分かりました」が残っています。

笹井議長 それでいいんですか、悪いんですか。

坂野委員 「分かりました」を消してください。これが私の要望です。

笹井議長 三浦課長としては……。

坂野委員 三浦課長の話じゃない。私自身の発言です。三浦課長の元の発言、本当に読まれて理解していたんですか。その別論の話はいましていません。私の言っていることは「分かりました」を消してくださいと、その理由を詳しく言い過ぎただけです。

三浦課長の言葉、流用、ほかにもあるんですけど、それは御覧になったはずですよ。それを直したわけですよ。それと一緒に。三浦課長は理由を言っていない。私は理由を言いました。その違いだけです。

だから、この「分かりました」を削除してください。

笹井議長 削除できるんですか。

坂野委員 それは我々委員が決める話です。事務局に相談しないでください。三浦課長のほうは、三浦課長の発言だったので、三浦課長が判断して3か所ですか、2か所ですか、修正された。これ、御覧になったはずですよ。知らないとは言わせません。

小林さんがおっしゃるように、今説明した内容は今回の議事録に残してもらって、議長、副議長が事前に議題を詰めなかったために、前回の不十分な討議になった云々ということは、今回の議事録で残させていただきます。

小林委員 坂野さん、前回説明が足りなかったという、坂野さんの意見です

よ。坂野さんの意見で言うと、説明が足りなかったから「分かりました」と言ってしまいましたというところなので、それはそれで形として事実は事実なので……。

坂野委員 そういう意味では分かりました。

小林委員 ただ、記録としては、そういうふうに進行了たということを残しておくという意味では、坂野さんの今回の御指摘をちゃんと反映させるため、逆に削除しちゃったら分からないじゃないですか、今回の話。

坂野委員 説明が足らなかった、そういうのではないんですよ。この場に小林さんはいらっしゃらなかったの。

小林委員 前回いなかったからね。

坂野委員 いなかったせいもあるんですね。だから、響きが分からないところがある。

小林委員 横から聞いていると、要は、今回、ちゃんと気づいて調べて御指摘なさったというところであれば、前回のところで、そういうことを言ってしまったということを今発言されているので、逆に言うと、それはそれで残しておかないと、連続して読む方は分からないじゃないですか。

坂野委員 三浦課長の発言に対する、僕の発言を、本当にお読みなら分かりますけれども、その発言のままでは困るので修正していただいたわけですね。それと同じなんですよ。全体的に読むと、小林さん、いらっしゃらなかったの、そういうふうには読めないでしょう。おっしゃる意味は分かりますが。

小林委員 次の会議とかいろんなところで、三浦さんのやつというのは今回にも響いてきます。だから、連続性とか全体の動きを市民の方にお伝えするというのがそもそもの議事録の目的なので、その目的のために、かなうものとかかなわないものという形で判断されたらいいの

かなと。

坂野委員 そのように判断しています。おっしゃるとおりで、小林さん、前回いらっしゃらなかったのも、ニュアンスが分からないと思います。

小林委員 そこについては僕も止めないですけど。

坂野委員 全て分かって私は話しているつもりで。進めたいんですけど、この結論を承認してください。議長は一般的な説明ばかりして……。

小林委員 その部分だけ除いたらどうですか。ほかはオーケーですか。

坂野委員 ほかは、今言ったことが伝われば、オーケーです。

小林委員 もう一回先送りというか、これ以上やらないと進まないの。

坂野委員 それは議長に任せましょう。議長は納得できないでいる。

小林委員 そこだけ切り分けた形で再度検討するということにして、それ以外の部分に関しては了承という形にということで先に進めるというのはどうですか。

坂野委員 小林さんが議長をやっていただくのが一番いいんですけど、そうはいかないので、笹井議長の御意見、どうぞ、続き、お聞きします、この議事録について。

笹井議長 小林さんの御提案のとおり、そういう形にさせていただいて、この部分については、ほかの部分については御了承いただいたということで調整すると。

坂野委員 どういうふうにするんですか。分からないです。この件について、私の発言についてどのようにするんですか。

笹井議長 ちょっと相談させていただきます。

坂野委員 ということは、この議事録は今日は承認しないということによろしいですね。

笹井議長 そうです。

坂野委員 分かりました。

笹井議長 全体としては、議事録として。

坂野委員 私の意見だけで、ほかの方、いらっしゃるかもしれないので、それは進めてほしいんですけど。今のところ、私の発言は、修正をしてほしいということです。

笹井議長 議事録の話はそのようなことにさせていただいて、資料2についてですが、小金井市の生涯学習推進計画の評価ということです。これも事務局から御説明をお願いします。

倉澤生涯学習係長 では、資料2を御覧ください。

 こちらにつきましても、事前にメールでお送りさせていただいて内容を御覧いただいているものです。

 第4次小金井市生涯学習推進計画は、市の上位計画であります第5次小金井市基本構想・前期基本計画と同様、令和3年度から令和7年度、5年間を計画期間として3つの施策の方向性、全11の施策の柱に沿って取組の推進を図っております。

 本計画の進捗の評価につきましては、全11の施策の柱ごとに行うこととしております。1から3の施策の方向性ごとに設定しました指標の数値を確認するとともに、11の施策の柱それぞれについて評価シートのとおり取組の進捗を確認し、今後の改善につなげていくよう努めているところです。

 1ページ目の評価の概要にも記載しておりますが、令和5年度は5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に変更になり、生涯学習に関する各種講座やイベントが例年に近い形で開催できたことが評価にもつながっていると考えております。

 評価基準につきましては、2ページに掲載しているとおりです。令和5年度の目標の達成度合いに応じてAからBの評価をしてお

ります。

なお、この評価の基準と評価内容につきましては、学校教育部も含めた教育委員会で行っております点検評価の報告書と同内容としております。

評価の結果ですが、生涯学習部で検討し、全11の評価対象のうち、A評価7つ、B評価4つといたしました。

令和5年度の取組、評価の理由、今後の事業展開と改善策等につきましては、各施策の柱ごとの評価シートを御覧いただきたいと思っております。

説明は以上でございます。

笹井議長 ありがとうございます。この資料2の内容について何か御意見、御質問はありますでしょうか。

坂野委員 質問があります。縦書きのほう、施策の方向性、これで質問です。内容を見ていくと、言葉として事業目標ですとか、個別のものについて令和5年度の目標（プラン）というのが書いてあるんですが、これは本体の第4次小金井市生涯学習推進計画書には載ってないものなんですが、どなたがつくられたんでしょうか。社会教育委員がつくったような形跡もないので、いきなりどうしてこれが出てきて何だろうと、びっくりして読んでいました。読むのに3時間ぐらいかかりましたけど、分からない点、かつ、筋が通ってればいいですけど、各項目の令和5年度目標を読んでみて矛盾している、重複している、何かそぐわないのがある。皆さんお読みになったと思います。議長、副議長も読まれたと思います。3時間ぐらいかかります。

読んで、知らない部分もあったりするので、どなたがつくられたのかなと、確認しておきたいのが質問の内容です。

笹井議長 具体的にはどの場所ですか。

坂野委員 各シートありますね、施策の柱1-1とか。ページは4ページ以降です。4ページ、5ページ、6ページ、続きます。箱の枠に入ったもので、2つ目の箱、令和5年度の目標と書いてありますね。前から言っていますように、本体の推進計画には目標はないんです。

ところが、ここには目標がずらっと並んでいるわけですよ、各施策の柱ごとに。お読みになりましたでしょう。これを読まずにここに出席されておられませんよね、議長、副議長。

ずっと読んで見ると内容が一致しないもの、重複しているものがある、誰がつくったんだろうかと不思議に思います。私が調べる限りは、前の社会教育委員はつくった形跡がない。にもかかわらず、急に出てきて、筋が通っていればいいけど、通ってない。かつ、目標という言葉が急に出てきて、どなたがつくったのかというのが質問です。

次の質問は、何を基準に、社会教育委員の了承なしに急に作出してきたのか、その点を確認したい。その2つでございます。

小林委員 4か年計画の中の目標というやつと、年度ごとにやる目標とか計画とか、具体的にブレークダウンしてやっていく話ですかね。

坂野委員 問題は、元の計画、目標はどこから出てきたのかということです。

梅原生涯学習部長 こちらに記載しているものについては、生涯学習の計画は5年間計画ということになりますので、これを進めていくに当たって年度ごとにこういうシートをつくって進捗状況を確認していくと。そういう中で年度ごとの目標、それから取組という形で整理しています。

笹井議長 これ、社会教育委員の会議でつくったわけですよ、この原案というのは。

梅原生涯学習部長 こちらの生涯学習計画についてはもちろんそうです。毎年度、こちらのシートについては、つくる段階では社会教育委員さんにはお示しはしていませんね。

坂野委員 その手順が分かれば、私の意見は一度時間をいただいて、ここの記載に関して、確認させてください。今言ったように、ちょっとおかしい。内容が間違っていて記載がおかしいところがあるので、そういう形がいいか知りませんが必ず外に公表されると思いますけど、その前にちょっと修正したいと思います。

森本委員

私は1期、2期、3期、今3回目というか5年目です。これをつくるに際して私はそこにいましたので、発言させていただきます。

今のお話の中で、私たちはこういうものをつくるのだということは、今生涯学習部長のおっしゃられたとおりで間違いありません。

それで、今最初におっしゃったことの中で、私たちは、その前提にこういうことを考えてくださいという形で参加させていただいて、そしてこれができ上がりましたというのが1つ。

もう一つは、どういう形かという、さらにその内容について年度ごとというか2年ごとに、ここに大熊教育長が出ていらっしゃいます。最初は必ず出ていらして、これをつくることに際してお話をなさったのを記憶しております。

どんなことを。おっしゃったかといいますと、これを見ますと、はっきりとおっしゃっています。

第4次小金井市生涯学習推進計画策定に当たってという、こういうものがこれ以外にも出されたと記憶しております。

そこでおっしゃったのが、御挨拶として、最後に、小金井市教育長大熊雅士という形でこういうものが配付されて、私自身も持っております。

その中に思いが書いてあるわけですがけれども、人生100年時代を迎えることになって、全ての市民が誰一人取り残されることなく、豊かに生き抜くことができるように新しい生涯学習を構築する必要があると考えますと。

この視点に立って、今回、生涯学習計画を策定したものであり、計画の柱として、1つは、誰でも自分の状況に応じた学習に取り組めるような環境づくりが必要だ。それからもう一つは、地域の豊かな活動の支援や生涯学習計画を通じた地域づくり。それから、3つ目が生涯学習活動を支える人材育成や情報発信等のネットワークづくりという、こういうことが必要ではないかと御挨拶しております。挨拶というか方向性をおっしゃっておられます、教育長として。

そこで私たちは、次の段階でこういうのをつくるんだという思いになりました。でき上がったらこれはすばらしいというか、こういうものがきちっと市民のほうに提供されているということも思っています、評価は、これについて高い気持ちをもっています。

ただ、何らかの方向性がということになると、私もそこまで深い

読みはできませんが、少なくとも、こういう形で検討を皆さんしましょうよということで、直接的に関わったことを思い返しても、こういうことだからということ、これにのっつてお話しなされたので、一人一人が発言をしているいろんなことを考えて、そして宿題のような形でみんなで討議しました。みんなでということは、そのバックには、市の皆さんとか教育長がいらしたかもしれないけれども、こういう形で検討して、形として言葉としてでてきたものです。私が言ったゼロ歳というのは皆さんびっくりなさっていて、いまもそうおっしゃる方がいますけれども、このような中でできていると私自身は認識しております。

細かい状況は分かりませんが、私の感覚ではそのような形だったと思っております。

一委員として今のような計画、経緯で、私どもは自分たちの意見は反映させていたと思っていけれども、そここのところがどうだったと言われると、そういう考えもあります、それで今疑義があるということではありません。

以上です。

梅原生涯学習部長　　るる御説明いただきましてありがとうございます。本日、この場に第4次の進捗についてということで資料を出させていたいただいておりますのは、生涯学習推進計画、この5年間でこちらに書いてあるところをしっかりと取り組んでいくという中で、本日の資料は、部局の自己分析という形かと思っておりますので、こちらについても御意見をいただき、我々のほうで受け止めさせていただいて、さらにこの計画の進捗に生かしていくと、そういったところが大きな趣旨だと思いますので、そのような形でお願いできればと思います。

笹井議長　　そういうことでお願いしたいと思っております。ほかの委員の皆さんの御意見も聞きたいので、ぜひお願いしたいと思っております。

小林委員　　自己分析の仕方というところで、こういう観点もありますということをお提案したいというところで幾つか言わせていただいてよろしいでしょうか。

まず、オンラインの件です。ポストコロナの現状を踏まえという

のは、コロナで3密を防ぐ必要がなくなったので、そんなに必要ないんじゃないかと思われていると困るなど思ったので、そうではないと思いながら御指摘の部分でいくと、オンラインというのは、インクルーシブの部分も含まれていまして、わざわざ公民館とか、そういったホールに行って話を聞かなきゃいけないというところが、身体的なハンディーを持ってらっしゃる方もいて、子供が騒ぐから公民館の講座に行けないという方、かなりいらっしゃっていて、私、オンラインのほう、かなり自主的にやっているんですけど、やはり子育ての方、耳だけという形で参加されている方、結構最近増えてきていますので、そういったインクルーシブの観点も含めて検討しなければいけないのではないかと。

ポストコロナだけではちょっとあれかなという気はしますので、その視点は入れていただきたいなと思います。

それからあと、9ページの放課後子ども教室、全日5日間やるとか回数を増やすという話はしているんですが、今ボランティアとか学校の現場へ行くと結構確保に困っていらっしゃるケースがあって、これ以上無理です、しんどいというのと、コーディネーターの方が属人化していて、代替わりも進んでいなければ1人の方に集中しているということも現実として私、目の当たりにしていますので、となると人材育成が大事じゃないですかというところで、目標を掲げるのはいいんですけれども、発展させるための手段というか具体策みたいなものも考えないと駄目ですよというところは申し上げておきたいなというところです。

あともう1点は、これも14ページのネットワークのつくりというところです。2点ありまして、確かにツイッターでお知らせするとか、そういったことは大丈夫だと思うんですが、ネットワークというとネットのネットワークだけなのかと見えてしまうので、ぜひ人と人とのつながり、関係団体が多い少ないという問題だけではなくて、団体同士がつながったり課題を持った人がつながる、今人と人をつなげることが地域のネットワークという理解で社会教育士の会でも言われていることなので、ネットワークという言葉の解釈をしっかりとっていただきたい。

当然知らせる、オンラインでやるというのは当たり前の話で、どちらかというと、人と人をつなげなければこれからはもたないんじゃないかということをお指摘されていますので、その課題をどうす

るのかというところをしっかりと目標と課題に挙げていただきたいと思います。

最後です。人材育成です。学芸大のボランティアセミナー、実は私、未来研のほうに研修も行きまして、裏側で改善案も出しているんですけども、これだけで人材が育つのかという疑問符は一度皆さんで持たれたほうが良いと思います。

あの講座を受けたからボランティアに流れていっているのかと見ますと、あまり流れていない、勉強して終わってしまっているという現状はかなりありますし、これでボランティア登録しますかと言われたら、これ、勉強したからどう登録するんだろう、何をやったらいいんだろう、分からないという声もたくさん聞いております。

人材育成、これだけでいいのか、これで人材が増えているのか、放課後子ども教室の現状も含めると、効果は上がってないんじゃないかな。逆にばらばらでうまく機能、リンクして機能していないんじゃないかな、せっかくやっているのにばらばらでうまくつながってないんじゃないかという懸念が私の周りでも上がっているというところもありますので、ぜひ今回、今回は今回で、この評価に対して私はそういう指標を設定したのだから、それはしょうがないなど思っているんですが、今後やるときに難しいこととか、これから何をしなければいけないのか、そもそも何のためだということの議論をした上での目標ということもやらなければいけないのではないかな。

その際に、事務方だけでやっていていいのかどうか、面倒くさいけど、いろいろ関係者の意見も聞いた上での目標にしたほうが良いのではないかなということも、大変かもしれませんが、評価を独りよがりにならないための観点としてぜひ検討していただけないかなというところが私の意見です。

以上です。

笹井議長

ありがとうございます。とても前向きでよい意見、ありがとうございました。ほかの皆さんどうですか。

坂野委員

本日欠席の伊藤さんに代わって発言します。伊藤さんはメールで送ってきましたので、伊藤さんに断って、私が伊藤さんの代理でしゃべります。

後半は、実は今小林さんがしゃべったことと一緒に前半だけしゃべります。

全体的な感想としては、随分自己評価が高いようです。それぞれ精査するのが大変だと思いますが、目標の数字をクリアしたらAという評価は意味がないのではないかと。

例えば、なぜクリアできたか、できなかったか、そこから見えてくる課題は何で、次年度はどのように取り組むかが見えるための評価をしていただきたいと思います。

また、来年度に向けてでは、課題の見直しが必要と書かれているものの、現状維持になっているものは疑問に感じました。その他全体に現状維持が多いなという印象です。

家庭教育学級、思春期講座についてですが、各学校、いろいろ工夫を凝らしてできる範囲で実施されていると思いますが、PTAの加入率の減少や役員のなり手不足、PTAの在り方そのものが揺らいでいる現状の中、真剣に見直すべきではないかと思います。

というのが前半で、後半は今小林さんがしゃべられたことと一緒にです。

以上、伊藤さんに代わって、本人に断って発言いたしました。

笹井議長

ありがとうございました。どうぞ、ほかの皆さん。

北澤委員

9ページぐらいまでの大きな枠組みの中の評価というのは一旦おいて、実績のところというのが細かい1個1個の行事ということですか。これ、多分リンクしているんですね。

見てみると、例えば……。3番。この次で話す予定の…話ですね。失礼いたしました。では、大丈夫です。何となくざっくりと自己評価を大きくくりでやられているので、そこに対して評価がしづらいという部分がでましたので、なかなかこれをもって、例えば計画がどうかという評価は、難しく、根本に大目標の柱があって、それに基づいてそれぞれが計画を立てているはずですので、そこについていとか悪いというよりは、結果はちゃんとどのように出ているのかというところをきちんと見たいなと思いました。

すみません、以上です。

森本委員

今北澤さんがおっしゃったとおりだと思います。話が今何を進め

ていくか、今日の議題としてここに挙がっていますから、それについてということであると、先ほどおっしゃった方法とか、内容についてでなくて、今2番の2のテーマに沿って、そしてそこで評価について、これがどうか、あれがどうかとって終われるのかなというのでいいのではないですか。

今のようないろんな意見が出てしまって、内容はとてもいいことを言っているんですけど、それをこの場で、2番の2で言うことでしょうかということ、少し整理してもらって進行していただけるほうが分かりやすいかと思います。

笹井議長 何かありますか。

三浦生涯学習課長 事務局でございます。今森本委員のおっしゃるところでございますけれども、今回私どもはこのように評価をさせていただきました。あくまでも自己評価というところがございますので、先ほど部長がおっしゃられたとおり、これについて御意見があるというところであれば参考にさせていただきたいと思っております。

先ほど小林委員からもお話がありましたけれども、今回はこれだというところも含めて、次回以降、参考になることがあれば御意見を賜ればと思っております。

森本委員 とてもよく分かりました。ありがとうございます。それを次の評価で反映することになるんですか。大事なところなので。

梅原生涯学習部長 今年度、来年度と取り組んでいきますので、取り組んでいくに当たって今御意見をいただいておりますので、参考にさせていただきながらやっていきたいと思っておりますので、ぜひ御意見いただきたいと思っております。

國分委員 ページ12、施策の柱2-4というところで、芸術・文化というのは言葉は出ているんですけど、その前に郷土の歴史という限定があるので仕方ないのかもしれないけど、宮地楽器ホールなどでも随分いろんな芸術文化活動を展開されていると思うんですけど、そういうのは結局含めないんでしょうか。芸術・文化活動、だから、主にコミュニティ文化課なんかが関わっているんだと思うんですけ

ど、そちらのほうとの関係は除外なんですか、生涯学習として。そこがこの間もちょっと疑問に思ったんです。

三浦生涯学習課長 今日2番の資料の12ページ辺りのところですけども、こちら、生涯学習計画で言うところの43ページぐらいですか、本のことです。

その中では、生涯学習課が担う部分とコミュニティ文化課が担う部分と両方事業的には書いてございます。この資料を編さんするに当たりまして、コミュニティ文化課にも若干情報提供をお願いしているところなんですけど、現状においては芸術・文化の記載が弱いというところは確かにそのとおりにかなと思いますので、次年度、その辺も踏まえて、作成するときには注意したいと思います。

笹井議長 坂野さん、御質問が。

坂野委員 質問です。先ほど飛ばされちゃいましたけど、部長の話の流れの中で、この資料、今検討している自己評価表、これは公表されますかという質問なんです。市民に対して公表されますかという質問です。

梅原生涯学習部長 公表されます。

笹井議長 それでは、議題の3番目、第5次小金井市生涯学習推進計画策定に向けての検討ということで、これも事務局から御説明をお願いします。

坂野委員 すみません、評価についてあるんですけど、飛ばされちゃいましたね。よろしいですか。

笹井議長 議題2についてですね。

坂野委員 当然議題2についてです。今公表されるという、公表というのを前提に私の意見を申し上げます。

今言ったように目標のこと、内容的に間違っているのではないんですが、続けて読むと重複等があったりして、こうやったらいいな

という意見が社会教育委員の意見があります。これはどのように提示したらいいのか。3時間かかって読みましたのでいろいろある意見を出すタイミングなんですよ、知りたいのはね。すぐ、今週中とか言われたら間に合わないんです。できるだけ延ばしていただいて、我々のほうから意見を言わせていただく。今日やり出したらきりが無いと思うので、別途に機会を設けていただければと思います。

笹井議長 この件についてですね。

坂野委員 目標等についてなんですけど、直したほうがいいのかなどを。
それともう1点、自己評価についての私の意見ですが、先ほど伊藤さんもいろいろおっしゃっていますが、私、これまでいろいろな自己評価を見てきましたし、図書館協議会の時には自分でもやりました。それについては、実は文句はありません。おかしいのは分かっていますけれども、全てそういうもので、背景がしっかり押さえられていればいいということで、私はこれで構わない。

ただ、問題は、目標は非常に曖昧な言葉になっていて、通して読むと矛盾生じるので、意見を言うという機会を与えていただきたいということでございます。

以上です。

梅原生涯学習部長 本日お示ししております資料については、我々、生涯学習部だけではなくて学校教育部も合わせた教育委員会全体としてのこういった評価として公表させていただきます。

今のタイミングといたしましては、教育委員会全体で進んでおまして、大変申し訳ないんですが、この内容そのものを書き換えるというのは、タイミング的に難しいかなと思っております。

ただ、この目標の立て方とか、この辺、おかしいんじゃないかというところも御意見がおありということですので、そこについてはぜひお聞かせをいただいて、今回のものに反映するのは難しいかと思いますが、そこはよく踏まえて今後、取り組みたいと思います。

坂野委員 議長にお聞きします。どのような方法で、社会教育委員の細かい修正といいますか、提案といいますか、意見といいますか、それを積み上げていって事務局のほうに提示したらいいか、これはお決め

以上です。

三浦生涯学習課長 言葉足らずで申し訳なかったんですが、今回の件に関しては、坂野委員の御発言、今後、お時間がかかりそうなので、部分部分について御指摘をいただいて、事務局に御提出をいただきたいという趣旨で発言を申し上げましたので、私の本意が伝わってなかったら恐縮なんですけれども、今回に限ってはそのような対応でいかがでしょうかという御提案を申し上げたつもりでございます。

以上です。

坂野委員 お話の意味が分からないんですが、私だけ伝えろということですか。

三浦生涯学習課長 いただければ皆さんには配付をします、事務局でコピーをして。

坂野委員 それは私、反対します。社会教育委員の会議ですから、委員を飛ばして事務局に意見を言うということ、笹井議長はよくやってらっしゃるようですが、それには賛成しかねます。

会議に提出された資料ですので、私の意見を、皆さんの意見を聞いて修正されるというのが前提の場ですので。私の意見を言うのは構わないですけど、そういう場では、せっかくこういう場があるので、それを飛ばすのはおかしい。

三浦生涯学習課長 ですので、本日、坂野委員に限らず、小林委員おっしゃるとおりでございますけれども、御提案というか御意見がある方は、会議時間の運営等もでございますので、事務局にいただければ、後日、改めて私どものほうから全委員に連絡をさせていただきますという扱いでいかがでしょうか。

笹井議長 ほかの皆さんはどういうふうにお考えですか。今の課長のやり方で私はいと思いますけど、ほかの皆さんはどうですか。

國分委員 いいですよ。坂野さんは、こういうのをもっと充実した議論にしたいから小委員会をつくれというようなことなんだと思うんです。それについてはまた後日。今回は三浦課長でオーケーです。

笹井議長 それではよろしいですか。では、そのようにさせていただいて、もしお気づきの点とかあれば課長に連絡してもらっていろいろとやってというふうにしたいと思います。

 それでは、先ほど来議論がありました議題の3、これについてお願いします。

倉澤生涯学習係長 では、資料3を御覧ください。こちらは現在進行しております第4次生涯学習推進計画の進捗状況調査の結果、令和5年分までのものとなっております。

 資料について補足させていただきますと、表の中の事業名と主な内容、担当課につきましては、推進計画、冊子の第4章、ページ数で言うと18ページ以降のものです。施策の展開というところに掲載させていただいている、全報告が載っております。

 また、事業名の後に括弧星マークがあるものにつきましては、別の柱でも再度掲掲載のある事業ということになっております。なので、再掲のもの、同事業のものには同内容が記載されております。

 こちら、議題2でも御説明したとおり、進捗に対する評価については、個別の事業ごとではなく、重要施策の柱ごとに行っておりますが、評価の判断材料として定量的に何か比較できる指標を担当のほうで任意で設定していただいております。

 来年度、第5次の計画を策定するに当たりまして、対象事業を少し整理させていただきたいと考えておりまして、今回は令和3年から令和5年の取組を踏まえた今後の計画・展望というのを資料で言いますと一番右端、こちらに項目として設けまして、事業全体の取組に関して、その効果や今後の予定、拡大ですとか継続、見直し等、各担当に記載していただきました。この辺りも御感想をいただきまして、委員の皆様にご意見をいただければと思っております。

 説明は以上です。

内田図書館長 資料3の中の数値で図書館関係で修正いただきたいと思うものがございまして、おわびさせていただくとともに修正をお願いしたいんですが、まず5ページなんですが、(4)の図書館における学びの推進、事業名、ボランティア育成支援というのがあるんですけども、上から8つ目ですね。

令和5年度実績は、12回で斜線があって延べ37人となっているんですが、申し訳ありません、延べ人数95人となります。

全く同じ事業が13ページにもありまして、(17)地域人材の活用と支援者、リーダーの育成の促進、こちらでやはりボランティア育成支援という、内容は同じですが、延べ人数95人が正しい数字となっております。

坂野委員 間違っている数字、どれでしたっけ。

内田図書館長 間違っている数字が12回の延べ37人というところ。

あと、もう1点だけ、同じ13ページで、今のボランティア育成支援の3つ下、大学図書館の連携というのがあるんですが、その令和5年度実績2回となっているんですが、こちらは275回の間違いになっております。

大学図書館との連携というのがボランティア育成支援、先ほど修正いただいたものの3つ下になるんですけれども、そこが令和5年度実績275回になっております。

2件のところが275になります。

坂野委員 質問ですけど、それは5ページのところに275回というのが出てくる。

内田図書館長 コロナ感染症で大学のほうが止めてくれということで説明がありましたので、ただここで再開になっております。

小林委員 大学が閉じちゃっていたので多分使えないんですね。

坂野委員 カードの発行か何か。

内田図書館長 カードの発行をさせていただいて、皆さん利用させていただいているんですけれども、大学のほうからコロナ感染症の関係がありましたので。

小林委員 ということは、私が2回使ったら2件なんですか。

内田図書館長 延べですので、そういうことになります。

小林委員 分かりました。

内田図書館長 改めて、この場をお借りしましてお詫びを申し上げますとともに、修正をよろしく願いいたします。

笹井議長 ありがとうございました。ということで、一部資料の修正がありましたけれども、これについて御意見ございますでしょうか。

坂野委員 この紙、拝見しました。これも3時間かかりました。

3点申し上げます。1つは、個別評価の目標は、教育委員会としてこれらの活動を推進するのに、人、もの、金、情報が足りているかどうかというのは、収集するのが目的かと思いますが、質問項目に次回入れていただきたいと思うこととして、不足するヒト、モノ、カネはないかという項目です。それが肝腎だと思います。これが1点目。

2点目がずっと拝見しますと、定量的に答えられないとか、凄い回答は、評価する事業がないというのが答えで出ています。これは定量的に答えられないのであれば、定性的に答えていただきたいので、質問表を、どのようにつくったのか知りませんが、これは質問の回答がきちんと出るように質問を設定していただきたいと思います。

例えば1ページ目の下のほうに、子育て情報提供というのがあります。評価する事業がないと書いてびっくりしたんですけど、そんなことはないでしょう。

これは9ページのところ、同じような情報提供事業のところを見ていただければ分かりますけど、同じ事業がたくさん書いてあります。だから、質問の仕方を丁寧にしてあげて、評価する事業がないとかいう回答が出るのはやめにしていきたい。

それともう一つ、回答の中に、この事業は中止する、中断するとか、どうしようかということを考えてというのが幾つかありました。1つは、薬物防止云々というやつと、もう1つは、男女参画の事業です。それこそ、こういう事業を止められてしまうときこそ、なぜかと検討するのが社会教育委員の役割だと思いますので、その理由

が分かるような回答の形式をつくって検討すべきであろうと。そうしないと、この表は役に立たないと思います。

最後、3点目です。今図書館長から大学の話がちょうどありましたけれども、これも2つに分かれる。

1つ、大学の話では、明らかに学芸大学の利用が多いです。この提携は市長部局がやっていますので、ここに載ってこない。この計画表自体には市長部局のやっていることがあれこれ漏れているんですね。学芸大学、それから工学院専門学校、名前を忘れましたがここにもあったと思いますけど、それらが入るような形でまとめて掲載してほしいと思います。利用する市民にとってみれば、教育委員会側というより市長部局がやっているので別なんだと言われても、それは行政の都合であって、生涯学習推進計画上の適切な区分にならないと思いますので、ぜひお願いします。

それから、國分さんがおっしゃった文化活動が宮地楽器ホールとかが載ってない。これも一緒です。市長部局だから載らない、それはおかしいと思いますね。市民からしてみれば、文化活動、一緒なので、茂木さんがやってくださっているとかは非常にありがたい話です。それが載ってこないというのは片手落ちだと思いますので、そこをただ単に項目並びを変えるだけじゃなくて、市長部局のものが入ってくるという形でこの表をつくり変えていただくというのが将来的な課題だと思います。

以上でございます。

笹井議長 ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

國分委員 疑問というか9ページ、男女共同参画とかああいうの、この言葉でいいんですか、いまだに。

笹井議長 もうちょっと具体的に。

國分委員 今男女の別みたいなことを言わないようになっているんじゃないですかね。

小林委員 補足すると、男女だけで性のあれだけでやっている。今いろいろ多様にもなってきているし、もうちょっとインクルーシブな権利の

在り方とか人間の関係性という形にも、男女共同参画は昭和っぽい
んですよね。昭和のとき男女だったんですけど、性で決めること自
体どうなのと言われていた時代に、男女共同参画かよというところ。

逆に、男女共同参画だけじゃなくて、いろんな困難を抱えた方々
のことも含めたインクルーシブな形でやったほうがいいので、そこ
のロジックを変えたほうがいいんじゃないですかという意見です
よね。

坂野委員 インクルーシブについては、北澤さんは生涯学習の関係で、イン
クルーシブという関係で何か御発言いただければありがたい。

笹井議長 それ、私が言う話だから。ほかの意見も聞いてみます、今のこと
も含めて。北澤さん、御指名がありました。

北澤委員 その話の前に、私がさっき言いたかったのは、坂野さんの意見と
同じですが、こういう形で出す以上は、定量的に評価が比較できる
ものがないというような、何となくあっさりとした、そうすると何
も評価できないわけですよ。でも、やるみたい。

なので、そここのところは、もしそれであるならば、別の指標とか、
これからもっと拡充していくのか、それとも収束していくのかとい
うところは、別に数字を出せとかというよりかは、評価というところ
にもう少しコメントをいただけると、これだとそれで終わりみたい
な、何も評価できないということになってしまうので、それだと
ちょっと寂しいかなと思いました。

それともう一つ、さっき言われた男女のところ、私自身は障害
者というところが土台にあるので、ただ、それは共生社会というところ
の項目できちっと載っているんで、そここのところをより拡充し
てほしいなというところが私の意見になります。

何となく、私もそここのところ、共生社会のところ、最初ぱっと見
ましたが、8ページですか、申請者がゼロ、ゼロ、ゼロ、ゼロとい
うような項目が最初ぱっと見えて、そうなってくると寂しいという
か、それは次の計画のときに切り口を変えるとか、もっとそここの
ところをより見直してほしいなというところがありました。

以上です。

笹井議長 ほかの皆さんはいかが。

金澤委員 今の北澤さんの御意見に重なってしまうかもしれないのですが、項目がすごく多岐にわたっているというか、すごくたくさんあるようになってしまっているの、必要な項目に挙がっているとは思いますが、もしかしたらもう少し、ここここはまとめて、もっと事業を太くして、そうするとこの評価も、100件やるのと50件やるのでは力のかけ方が少し違ってくると、そうするとさっき北澤さんがおっしゃっていた評価ができるような結論のコメントをもう少し書けるかもしれないのかなというところは、今回、表をいただいて思いましたところです。

以上です。

笹井議長 ありがとうございました。

新井委員 いつもお世話になっております。学校と地域の連携ということに関しましては、先ほど小林委員がおっしゃったのに全く、学校としては開かれた学校を目指しておりますので、連携、すごくしたいんですが、地域コーディネーターの負担のことであるとか、あるいは人数の調整であるとか、学校行事と地域のことが合わないとか、日程調整、人数調整含めて非常に課題、クリアしなくてはいけないことがすごくいっぱいあると思いますので、こここのところの評価がさらに、評価項目も含めて、具体的にどういうふうに仕掛けをつくっていくのかなというのが学校側も含めて相談していただければと思います。よろしく願いいたします。

金澤委員 企業側としてはできることとして、緑中さんとか各中学校さんの職業体験を受け入れておりますので、地域コーディネーターではないのですが、お役に立てることが少しでもあればと思っています。

新井委員 ありがとうございます。職場体験につきましても、日程調整も含めて各学校、行事の隙間を縫ってやるとかで、職場の奪い合いみたいな部分がすごくあるので、その辺の調整とか、新しい職場の開拓等、いろいろ今後ともお世話になると思います。よろしく願いいたします。

金澤委員 承知いたしました。

笹井議長 榎本さん、何か。

榎本委員 単純な話ですけど、僕はこういう言い方をするといろいろ問題があるんだろうけど、この計画書自体、これ、全部市民に公開するわけですよ。見るんだけど、前回も同じことを言ったんですけど、多過ぎますよ。多過ぎるし、市民はそこまで期待というか要望してないと思う。この項目、目標自体は自治体としてやらなきゃいけないことと市民サービスとしてやらなきゃいけないことと、大前提としての生涯教育で考えなきゃいけないこと、こういうセグメントを考えないと、こういうふうに盛りだくさんの、だんごのてんこ盛りになっちゃうわけです。僕は5個しか食べられないんです、だんごは。それを20個も盛られても困るんですよ。お断りするの失礼だし。そういう発想にならないんですかね。

上手には言えないんですけど、こういうふうなものを見ていますと、船頭多くして船山に上るというふうな状況なんじゃないかなと思う。

ですから、例えば部会をつくったらどうですかという話、坂野さんがされましたけど、部会をつくるということは誰かが負担するわけですね。本来、この会でテーブルにのっけるべき問題と、市民サービスの問題とか、そういうものが雑然と入っていますから、非常に広範囲に入っている。

資料を見ても、実は相関性というのは分かりづらいですね。この評価書と計画書の相関性とか、そういうのは分かりづらい。何が原因かという、本当にいるんですかということを考えて、

皆さん、お仕事ですから、これもやらなきゃいけない、あれもやらなきゃいけないというふうになるから話がややこしくなる。

例えば子どものスポーツの問題、今問題になっているのは、地域スポーツの中学校、クラブの問題。そういうものをクローズアップさせて計画の中に組み入れる。これはいつまでにやりましょう。5年間で200項目やりましょうなんていうんじゃないで、そういうふうなことの立て方を、どうせやらなきゃいけないのは市役所さんがやらなきゃいけないんですよ。我々の仕事かといったら、そんな

ことは決してないんです。

逆に言えば、ということですから、市役所さんが御自分たちで動きやすいような形の計画をつくったほうがみんな理解しやすいし、協力しやすいんじゃないんですかと僕は思います。

ですから、別にそのことでなきやいけないんじゃないですけど、交通安全の問題は、自分で言っていますけど、今年も運動があります。警察へ行って話をすると非常に迷惑がられるんです。積極的にはやってくれない。そんな面倒なこと、何でやらなきやいけないだみたいなことになるんですね。それでもやってもらえば、それなりにやっている価値は出てくると思います。

そういう項目を引っ張り上げて、小金井とはどうあるべきかと。貧乏で市役所つくるのに苦勞して、いろんなことあるじゃないですか。でも、そんなことはどこの市町村でもやっていることであって、本来、この目的は、はっきり言うと子育てと僕は思うんですよ。子どもが小金井に住んで大きくなって市に貢献できるようになって、それはよかったなと、こういう話だと思うんです。そういうものをちゃんと組織立って作り上げていくのが本来じゃないのか。

市役所をつくるなんか市の仕事じゃないですよ。要らないですから、そんなものは。市民から見たら、サテライトを10個ずつつくれば、市民はそれで取りあえず便利なんだから。そういうふうなことを考えると、予算づけの問題にしても、1個1個のことをやらなくて、本当にやらなきやいけないこと、言ったら、勝手にやれよみたいなことをどこかで小分けしちゃえば、すかっと整理しやすくなるんじゃないんですかと私は思います。

以上です。

笹井議長

ありがとうございました。どうぞ、小林さん。

小林委員

個別には多過ぎるので、前メモをお送りしたので、あれはあれで見ていただいてというところなんですけれども、今回、回数を書いて評価しますと。評価するものはないというのがあったんですけど、定量的にないといっても、例えばこういうことでアンケートを取って、いろんな人に見られているとか、もうちょっと広がっているとかいうところで、何らかの形で評価はすべきであると。

当然、回数とか量を求める、数を求めるものと質を高めるという

やり方もありますので、それはそれぞれの事業で、どの指標でどう
いくか、ちゃんと決めてもらった上で、どこまでいったのかという
のを客観的に分かるようにはしないと、それは目標を達成するなり
評価なりというところにはつながらないと思いますね。

それは、私も仕事柄、公共的などころだったので、難しいのはよ
く分かっているんですけども、自分たちで決めてやっていかないと
それはいけませんよということがまず1つ。

それは当面の話なんですけれども、あともう一つは、これ、何回
いって増えました、結果的に人々はつながったんですか、ボランテ
ィアに参加しようとする機運が高まったんですかとか、放課後子ど
も教室を利用したことがある子が、全児童の中で何%なんですか。
回数は増えています。だけど、リピートしている子だけかもしれない。
ということは、全然利用したことがない子が増えてこない。要
するに、接触率が悪いという子がいるかもしれませんよね。それが
原因なんなんだろうというところへいかないと次の改善が出てこ
ないのではないかとこのところがあるので、当面の目標としては、
回数とかそういった指標を使うのは僕も大賛成ですし、ちゃんとや
ってほしいんですけども、その結果、生涯学習はどうなったんで
すか、目標が。全体的に市民にどう広まったんですか。これ、税金
を使っているわけですから、当然、必要ですよ。

生涯学習に全然触れたことがない方が結構多いということにな
ると、それが一部の人たちのために、受益者のためだけにやってい
る事業になってしまうんじゃないですかということも、税金の使い
方としては批判を浴びかねない話だと思いますので、そのやつを
どうするか。

府中は計画をつくるときに、あなたはボランティアに参加したこ
とがありますかとか、市民にわっとアンケートを取って、現状、全
体的に生涯学習を市民にどう捉えられているのかというところを
やっていたやに思うんですけど、僕もぼやっとして見ていたので、
アンケートを取ったんだという、2回ぐらいしかないんですけども、
例えばですよ、それをやれという話じゃないんですけども、
市民にどう届いているかというのをどうやってはかるのか、どうや
って評価したらいいのかというのは、これからやっていかないと税
金が厳しくなるので、ぜひ説得力を増すためにも何か手を打ったほ
うがいいんじゃないかということは、これを見ていて全体的な印象

としてありました。

以上です。

笹井議長

ありがとうございました。

坂野委員

私の意見を言います。前向きな意見も言います。小林さんが今おっしゃったのは、先ほど私が言いましたように、インフラが足りていますかというのも、この意見の中、吸い上げるというのが重要だと思います。

それから、先ほど榎本さんがおっしゃったことを受けてですけれども、計画そのものが非常に分かりにくい、こうやって評価も非常に見づらい。我々、社会教育委員になった瞬間に神通力が備わって一端から全て見えるなんて、絶対あり得ませんから。非常に混乱しているのは私も一緒です。

次回に向けての提案をしておきます。まず、区分なんですけれども、もっと分かりやすい区分を、そのまますぐ使えばいいんじゃないかなと思っています。例えば奇をてらった、共創とは何とか、そんなのは置いておいて、分かりにくいのは置いておいてです。提案だけしておきますと、学校前の幼児の段階、学校の段階、家庭教育の段階、青少年の段階、成人の段階、高齢者の段階、そういう分け方をすれば、そういう事業が200あっても300あっても、自分はこれだと非常に分かりやすい。

そういう分け方が1つと、もう一つの区分は、文化、それも地域文化と一般文化ですね。それから、スポーツ、市民教育、市民教育の中は市政と経済などがあります。例えばまち開発ですとか男女参画ですとか健康ですとか保健とかリスクリング、こういうふうな区分に事業を整理すると、生涯学習計画そのものが読みやすいでしょうと。

市民が読みやすいということが非常に重要なので、そういう形で項目を分けていったほうがいいんじゃないだろうかと思います。行政のために、行政の区分を重視してというのは分かりますけれども、榎本さんと同じように、私もこれを読むのは苦労しました。ましてや個別事業の内容は分かりませんので、それを推察することができない。

ということで、次回第5次計画に向かって、区分として、分け方

として、対象事業の分け方としてそのようなものを提案したいと思います。

以上です。

笹井議長 ありがとうございました。

三浦生涯学習課長 今回、資料3番のところなんですけれども、生涯学習計画に載っている事業全てを網羅的に載らせていただきますので、項目が多いというのは、この中の項目が多いという理解でございます。

この中の言葉全てこのまま拾っていただきますので、例えば男女さんのところ、時代にヒットしないんじゃないのという御意見もあつたんですが、計画の中にその言葉が載っているの、そのまま引っ張っているという理解でお願いいたします。

今日の段階では、私どものほうで、市役所の内部でございますので、定量的にはかれるもの、今現時点の到達点について、のほうに聞いてみて、皆様のほうに御提示したのがこの資料3ということですので、まだこれで確定ということではなくて、今載っている事業施策そのものが現時点こうなっていますよという俯瞰的に御覧いただきたいという趣旨で御提示してございますので、今るる議論いただいてございますけれども、その先の議論については、また皆さんにお願いをしたいと思っております。

ただ、この第4次計画をまとめていくに当たって、現時点での到達はここまでですというところで御覧をいただきたいかったところだけ冒頭に申し上げればよかったです。申し訳ありません。以上でございます。

坂野委員 事務局への要望です。プリントアウトするときにA3でプリントアウトしていただけませんか。私はA4で自分のところでプリントやったんですが、印字が潰れて本当に読むのに苦労しました。いろんな会議を私10年間、経験していますが、A3で出されてきますので、そういう対応で、事前に送付するという形で手配をよろしくお願いいたします。

以上です。

倉澤生涯学習係長 それぐらいは何とか対応させていただきます。

笹井議長 ありがとうございます。それでは、議題の4番目、関東甲信越
静社会教育研究大会について、これも事務局からお願いします。

倉澤生涯学習係長 御説明いたします。資料4を御覧ください。今年度の関東甲信
越静社会教育研究大会の御案内です。

 こちらにも事前に送付をさせていただいております。毎年、市の
ほうで予算を取っております。2名の委員に御参加いただいております。

 補足しますと、今年度は関東甲信越大会と全国大会が合同で行
われますため、見出しが全国社会教育研究大会となっておりますが、
参加していただく大会は、第55回関東甲信越静社会教育研究大会
茨城大会です。

 こちら、初めて御参加される方を優先とさせていただきます。申
込みも始まっておりますので、本日、御参加の御希望をお伺いさせ
ていただければと思っております。

 説明は以上です。

笹井議長 どなたか御希望の方は。

國分委員 希望します。

小林委員 私はどちらにしろ、自腹でもいいから行きます。多分初めての方
に行っていただいたほうが良いと思うので。

國分委員 一応希望はしておいて。

小林委員 出る意思はありますということは表明しておいて。

笹井議長 國分さんと小林さんと、どなたか、今初めての方という話があり
ましたけど。

金澤委員 文化祭があるのでちょっと申し訳ないです。

笹井議長 それでは、よろしいですか。今の國分委員と小林委員、2名でお

願いますと。

倉澤生涯学習係長 本日ご欠席の伊藤委員にも確認させていただいてよろしいでしょうか。

笹井議長 伊藤さんがいらっしゃったら、こちらの関係で行くのは國分委員と伊藤委員で、小林さんは申し訳ありません。では、そういうふう
に決めさせていただきます。ありがとうございました。

議題5のその他なんですけれども、事務局から何かありますか。

倉澤生涯学習係長 事務局です。1点おわびと御報告です。今年度の社会教育委員の会議の日程を年度当初にお配りしていたところなんですけれども、次回10月18日を予定しておりましたが、申し訳ございません、内部の監査が入ってしまった関係で、10月21日月曜日、同じ時間、10時からに変更させていただきたいと思います。

場所が別のところになる予定です。後日地図等もつけて皆様に御案内したいと思いますので、御予定を空けておいていただければと思います。

以上です。

笹井議長 ありがとうございました。ということで、予定した議題も終わったんですけれども、ただ、議事録、坂野さんの御指摘もあって、議事録が一部ペンディングという話があって、ほかの分は御了解いただいたんですが、基本的に議事録というのは、発言した御本人、あるいは反応した方が御了解すればいいという話なんですけれども、これは課長と坂野さんと相談していただいて、御了解いただければ、ほかの方はそれを尊重して了解していただいたということでよろしいですか。

そんな形にさせていただきますので、よろしく願いいたします。
ということで、早めに終わらせてほしいということですので。

坂野委員 小委員会の開催なんですけれども、先ほど話がごちゃごちゃしたあれなんですけれども、2つ提案があります。

1つは、社会教育関係団体補助金の見直しについてという、平成16年の提言、これは小委員会を開催して提言されたものです。そ

れを読みますと、内容が古いんです。読めば分かります。20年前ですから。やはりこの機会に、今回いろいろな問題が上がった機会に改定しておいたほうが見やすくいいという気がします。先ほどの抽せんも含めて。

ですから、これをぜひ開きたいということです。議長、副議長に必ず入っていただいて。我々の任期後半になりますと、生涯学習計画5次の策定がありますから時間がないので、できれば短期で、そんな長くかからないと思いますので、ぜひ開催したい。

もう一つの小委員会は、笹井議長は非公式の場と言われて無視されていますけれども、Zoom会議ではいろんな意見が出ています。この間、20日に開いたときにもそうです。やはり小委員会を開催し、小委員会でもってみんな言いたいことを一度しゃべってそのときの結論は、それを伊藤さんのメモのようなメモの形でまとめるというふうな手順を入れないといけません。それを本会議中でしゃべっていたら、2時間たっても3時間たっても時間が足りない。内容も有用だと思いますので、正式の小委員会を早く立ち上げたいと思います。

ただ、現在は小委員会準備会ということで、小林さんの資源を使わせていただいてやっておりますが、正式のものとしてやりたいというものを早急に詰めたいというのを提言いたします。いかがでしょうか。

笹井議長 坂野さんの御提案というのは、全員が参加する小委員会という意味ですか。

坂野委員 小委員会ですから、特にルールはないみたいなんですけれども、例えば議長と副議長だけでも構いません。実際はもっと多く参加しますよね。例えばあなたは必ず参加しなさいという要請もありうる。キーパーソンは議長と副議長ですので、御両名かどちらかかという形になりますけど。その都度その都度決めてよい、これが私の意見です。いかがでしょうか。

笹井議長 分かりました。もしこれについてほかの方、御意見ありましたら。

小林委員 坂野さんの意見も分かるし、あれなんですけど、我々として、要

するに生涯学習計画、どうなっているんだとか、生涯学習は何なんだと、どういう役割なんだとか、そもそものところ、僕らで勉強してある程度理解した上で計画について物を言わないと、逆に事務方の人も、普通、行政としてこういう立てつけでこういうふうに行っているというのをこちらもある程度理解しておかないとすれ違っちゃうというか、いきなり直前になってどかんとかいう話になって、また事務方が大変になったり、逆にコミュニケーションがないがために、もうここまで決まっちゃっていますから無理ですという話になっちゃうかもしれないという部分も往々にあると思うんですね。

坂野さんが心配されているのは、適切なところで意見をちゃんと言い、お互いやり取りをした上でいいものをつくっていききたいということが最大の目標だと思いますので、6回だとなかなかそれがうまくいきませんよねという問題提起だと思いますので、小委員会でやるのか、あれでやるのか、形についてはそんなに僕はこだわりはないんですけども、ただコミュニケーションはしっかり取っておきたいなと思いますし、それぞれ皆さんがどういうことを考えていて、どういう問題、課題感があるのかということころは、さっき吐き出すとおっしゃっていましたが、この間もいろいろ話をしたらいろんなことが出てきて、そうか、そういうことも確かに疑問点だったよねという話も出てくるので、あるといいなぐらいの話です。

私もそれについては何となく協力したいし参加したいなというふうには思っています。できたら、事務方の方もぜひ。

笹井議長 森本さん、どうぞ。

森本委員 私も今の話に賛成です。お二方、おっしゃっていましたが、それはあったほうがいいと思います。私が何年かかかわってさっぱり分からないことが多かったので、大事なことだと思います。
以上です。

笹井議長 ほかの皆さんはいかがですか。今の坂野さんや小林さんの意見を踏まえて、事務局、我々も含めて検討させていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

 そんなところで、今日の議事はこの辺にしたいと思いますけれども。

坂野委員 今3人から提案があってというか、それは次回持ち越しの話になるんですか。ここで時間を取って検討というか決められることではないんですか。

笹井議長 これ、予算の関係とかスケジュールの関係とかあるので、役所のやり方とかいろいろあって、お三人のおっしゃることはそうだなと思って聞いていたんですけど、何回やるとか、どういうメンバーでやるとか、その辺のところは、すぐというわけにはいかないのかなと。ということにさせていただきたいと思います。

坂野委員 分かりました。

小林委員 自主というか、僕らがつくってぐじゃぐじゃ言っている分にはいいですよ。

笹井議長 それは。
では、そんなことで今日の会議はこの辺にしたいと思います。皆さん、どうも御協力ありがとうございました。

— 了 —